

能美市 観光アクションプラン 2024

Nomi City Tourism Action Plan 2024



目次

第1章 策定にあたって

- 1. 能美市観光アクションプラン2024の目的 2
- 2. 計画期間 2
- 3. 計画の位置づけ 3
- 4. 能美市観光戦略の基本方針 3

第2章 能美市の観光の現状と課題

- 1. 能美市の観光に関するデータの分析 4
- 2. 能美市観光アクションプラン2019の評価 7
- 3. 能美市観光アクションプラン2019の取り組み 9

第3章 能美市観光アクションプラン2024の方向性

- 1. 能美市を取り巻く現状の整理 13
- 2. アクションプラン推進に向けた3つの視点 14
- 3. 施策の体系 16

第4章 能美市観光アクションプラン2024の目標と事業計画

- 1. 能美市観光アクションプラン2024の目標値 17
- 2. 能美市観光アクションプラン2024の事業計画 19
 - I 観光地としての受入環境整備 19
 - II 着地型観光の確立 21
 - III 観光まちづくりの推進 23
 - IV 地域資源を活かしたものづくり 25
 - V 地域連携による観光事業の拡大 26
- 3. 能美市観光アクションプラン2024の進め方 27

第1章

策定にあたって

1. 能美市観光アクションプラン2024の目的

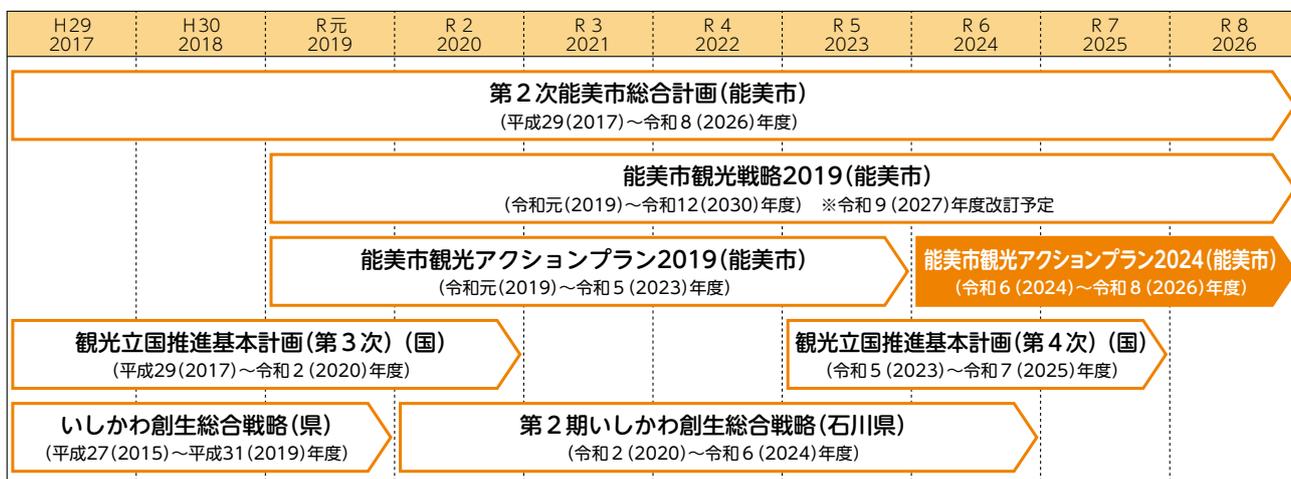
能美市では、令和元(2019)年に「能美市観光戦略」を策定しました。「能美市観光戦略」は「交流から移住・定住へ」をめざし、観光を「能美市の社会や市民を豊かにし、地域が活性化することで幸せを創造する活動」ととらえ、交流人口の拡大を図りながら移住・定住につなげることを目的としています。また地域全体で観光客へのおもてなしを実現するための方向性を具体化したものとして「能美市観光アクションプラン2019」を策定し、能美市の観光施策を推進してきました。

近年、特に新型コロナウイルス感染症の流行を経て、人々の観光スタイルやニーズ・価値観に変化が見られました。また一方で、能美市内においては新たな観光施設・拠点がオープンすることで観光魅力の更なる充実が図られています。

令和6(2024)年3月の北陸新幹線石川県内全線開業の機会も活かし、持続的に交流人口を拡大していくためには、このような外部・内部両面の環境変化に的確に対応することが重要であることから、現行プランによるこれまでの取り組みを評価した上、環境変化に伴う新たな課題等を踏まえた今後3年間の取り組みを検討し「能美市観光アクションプラン2024」を策定します。

2. 計画期間

次期能美市総合計画の策定に合わせ、能美市観光戦略と同時に改訂することを念頭に、**2024年度(令和6年度)～2026年度(令和8年度)の3年間**とします。

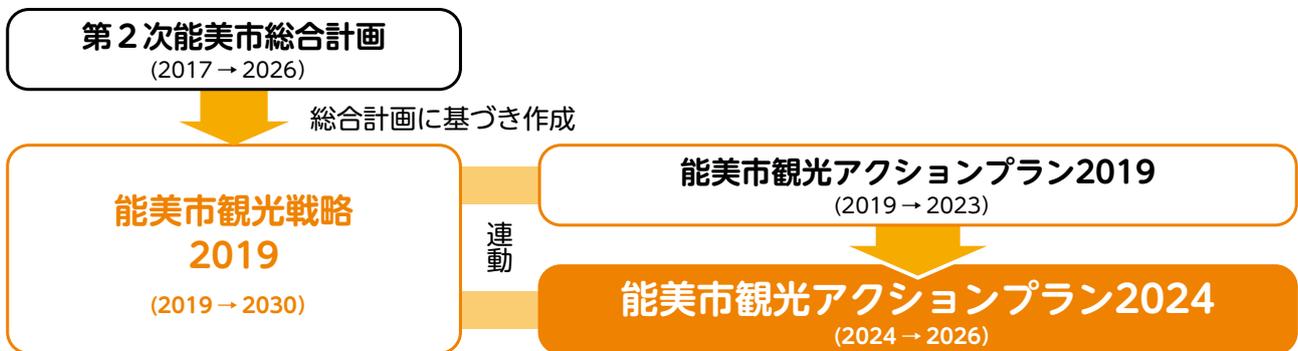


図表1 計画期間



3. 計画の位置づけ

能美市観光アクションプランは第2次能美市総合計画に基づき策定した「能美市観光戦略2019」の戦略を実現するためのアクションを具現化したものです。「能美市観光アクションプラン2024」は「能美市観光アクションプラン2019」での取り組みの評価や課題、能美市外部・内部の環境変化を踏まえて策定します。



図表2 計画の位置づけ

4. 能美市観光戦略の基本方針

能美市観光戦略における基本方針は以下のとおりです。

- ▶ 観光客が快適に楽しめる観光地としての基盤をつくる
- ▶ 自然や歴史、ものづくりまで、多様な資源を生かしてリピート訪問に結びつく着地型観光を考える
- ▶ 観光の担い手を育成しながら、能美市の魅力を発信しプロモーションを展開する
- ▶ 市民が携わり、観光プログラムや特産品の開発までできる仕組みをつくる
- ▶ 近隣の自治体と共に連携し、地域のブランド力を高める

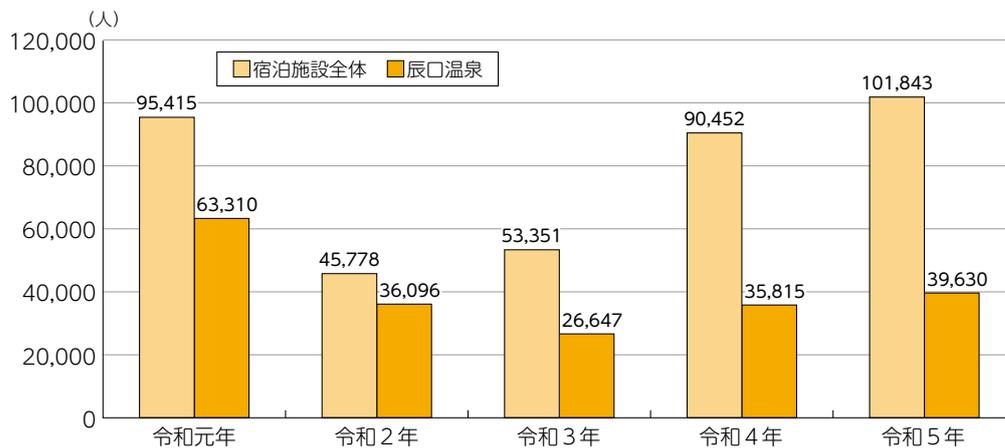
第2章

能美市の観光の現状と課題

1. 能美市の観光に関するデータの分析

(1) 宿泊客数

令和元(2019)年の能美市内の宿泊者数は9.5万人でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響や「ふるさと交流研修センター」の休業等により、令和2年ではおよそ半分の4.6万人まで減少しました。その後「スーパーホテル石川・能美根上スマートインター」の開業や「ふるさと交流研修センター」のリニューアルオープンにより、令和5年には10.2万人と令和元年の水準まで回復しました。



図表3 能美市内宿泊施設利用者数の推移

宿泊施設：ふるさと交流研修センター（R2年より休業、R4年リニューアルオープン）、まつさき、たがわ龍泉閣、旅亭萬葉、B&B NEAGARI、縁が和庵（R2年閉業）、スーパーホテル石川・能美根上スマートインター（R3年開業）、Natural log cottage Hakusan（R5年開業）

※宿泊施設は日帰りを含む人数

※辰口温泉は「まつさき」「たがわ龍泉閣」「旅亭萬葉」の3施設

出典：能美市観光交流課



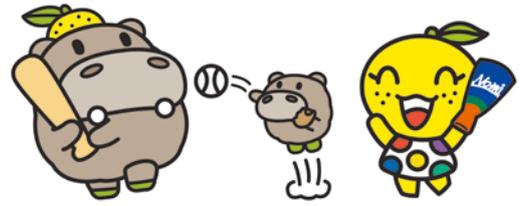
健康ロード



秋山山古墳群



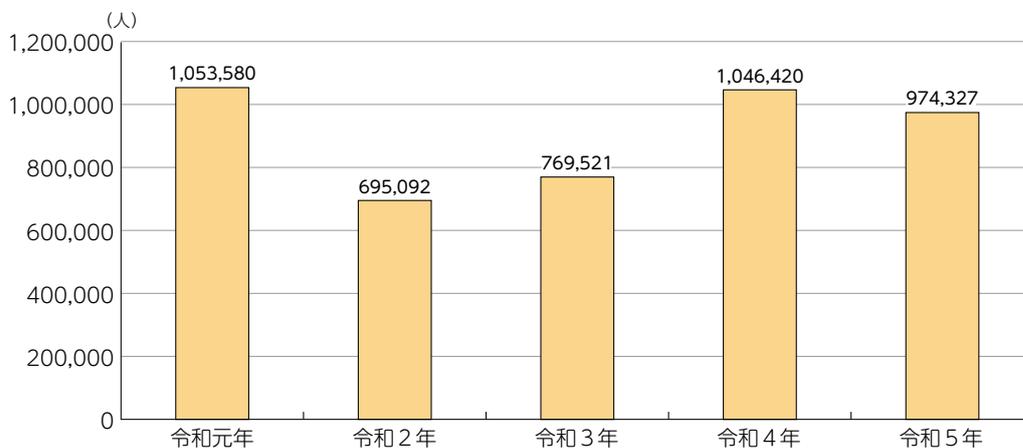
七ツ滝



(2) 主要観光施設の入込客数

令和元(2019)年の観光施設の入込客数は105.4万人でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2(2020)年は70万人とおおよそ35%減少しました。その後、入込客数は増加傾向にあり、令和5(2023)年には97.4万人と令和元(2019)年と同水準まで回復しています。

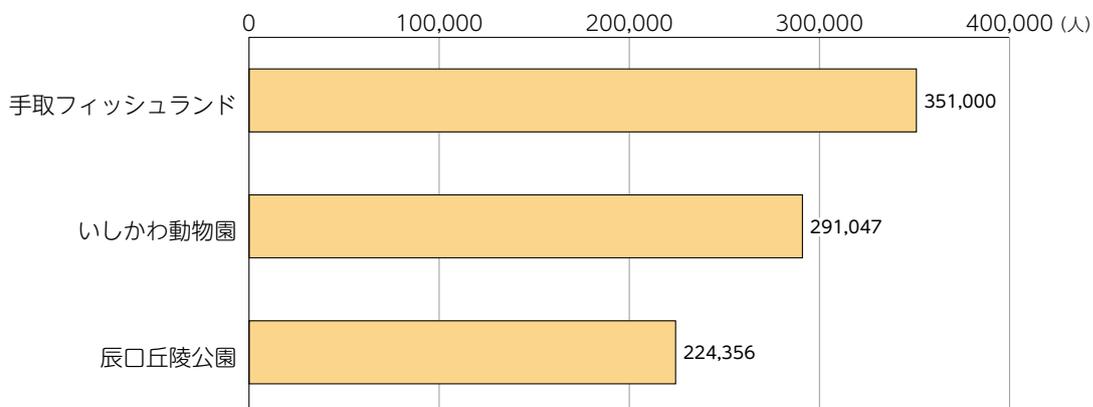
令和5(2023)年の入込客数の多い上位3施設をみると、「手取フィッシュランド」が最も多く35.1万人、次いで「いしかわ動物園」が29.1万人となっています。



図表4 主な観光施設の入込客数の推移

主な観光施設：手取フィッシュランド、いしかわ動物園、辰口丘陵公園、歴史民俗資料館（R2年7月閉館）、能美ふるさとミュージアム（R2年10月開館）、松井秀喜ベースボールミュージアム、五彩館（資料館）、体験館（陶芸館）、浅蔵五十吉記念館（美術館）、アドベンチャーガーデン能美（R4年10月開業）

出典：能美市観光交流課



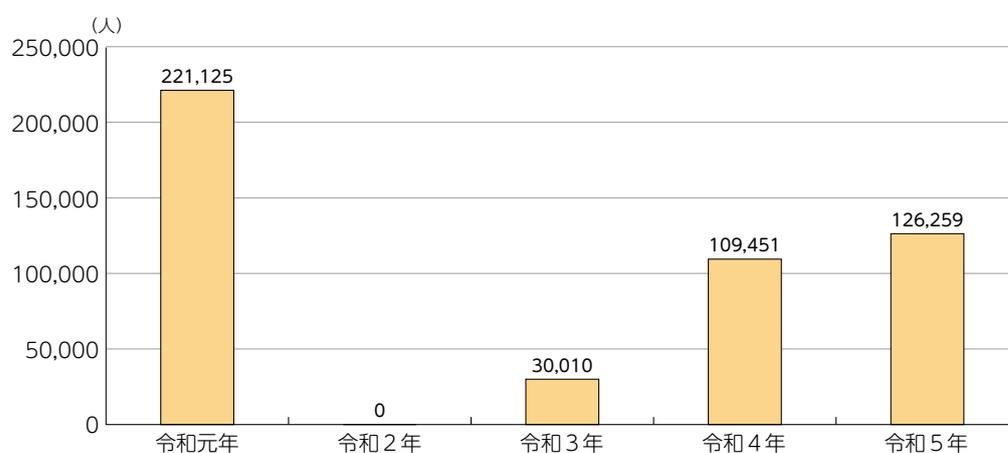
図表5 入込客数の多い上位3施設（令和5年）

出典：能美市観光交流課



(3) 能美市内のイベント参加者数

令和元(2019)年のイベント参加者数は22.1万人でした。新型コロナウイルス感染症の影響により令和2(2020)年、令和3(2021)年のイベントは自粛や中止を余儀なくされました。令和4(2022)年はウィズコロナの日常の中で徹底した感染症対策を行うことでイベントが開催され、令和5(2023)年のイベント参加者数は12.6万人と回復傾向にあります。



図表6 能美市内のイベント参加者数の推移

※根上り七夕まつり、九谷茶碗まつり、九谷陶芸村まつり(秋の茶碗まつり)、辰口まつり、KUTANism(展覧会除く)の合計来場者数
出典：能美市観光交流課

(4) 令和6年における能美市観光を取り巻く環境変化

令和6年1月1日に発生した令和6年能登半島地震により、過剰な旅行自粛や風評被害等のため観光需要が落ち込み、市内宿泊施設において多数のキャンセルが発生したほか、市内宿泊施設では被災地からの避難者の受け入れも行っています。

一方、3月16日、北陸新幹線が石川県内において全線開業し、首都圏や関西・中京圏等からの時間距離の短縮による利便性向上や、メディア露出の増加が期待されています。

国や県では、観光需要の回復や新幹線開業効果の取り込みを図るため、「北陸応援割(いしかわ応援旅行割)」や各種誘客促進の取り組みも行われており、これらも活用し、被災者支援との共存を図りながら、能美市の観光振興をさらに強化する機会が訪れています。

2. 能美市観光アクションプラン2019の評価

目標達成状況

①観光施設・イベント等入込客数

観光施設・イベント等の入込客数は、平成29(2017)年は243万人で、その後も200万人以上を維持していましたが、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2(2020)年は133万人と大きく落ち込み、令和5(2023)年は170万人と、目標値である310万人の達成は厳しい状況です。

主な観光施設も同様に、平成29(2017)年は113万人でしたが、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2(2020)年は69.5万人と大きく落ち込み、令和5(2023)年は97.4万人まで回復しましたが、目標値である170万人の達成は厳しい状況です。

宿泊施設利用者数は、平成29(2017)年は10万人でしたが、新型コロナウイルス感染症が拡大した令和2(2020)年は4.6万人と大きく落ち込みました。しかし令和5(2023)年は10.2万人と、平成29(2017)年の実績値まで回復しています。

(単位：人)

区 分	平成29(2017)年 実績値	令和5(2023)年 目標値	令和5(2023)年 実績値 ※速報値	増減 (令和5年目標値 －令和5年実績値)
観光施設・イベント等 入り込み客数	2,428,917	3,100,000	1,700,341	▲1,399,659
うち主な観光施設	1,134,319	1,700,000	974,327	▲725,673
うち宿泊施設利用者数	100,343	150,000	101,843	▲48,157



辰口温泉 まつさき



辰口温泉 たがわ龍泉閣



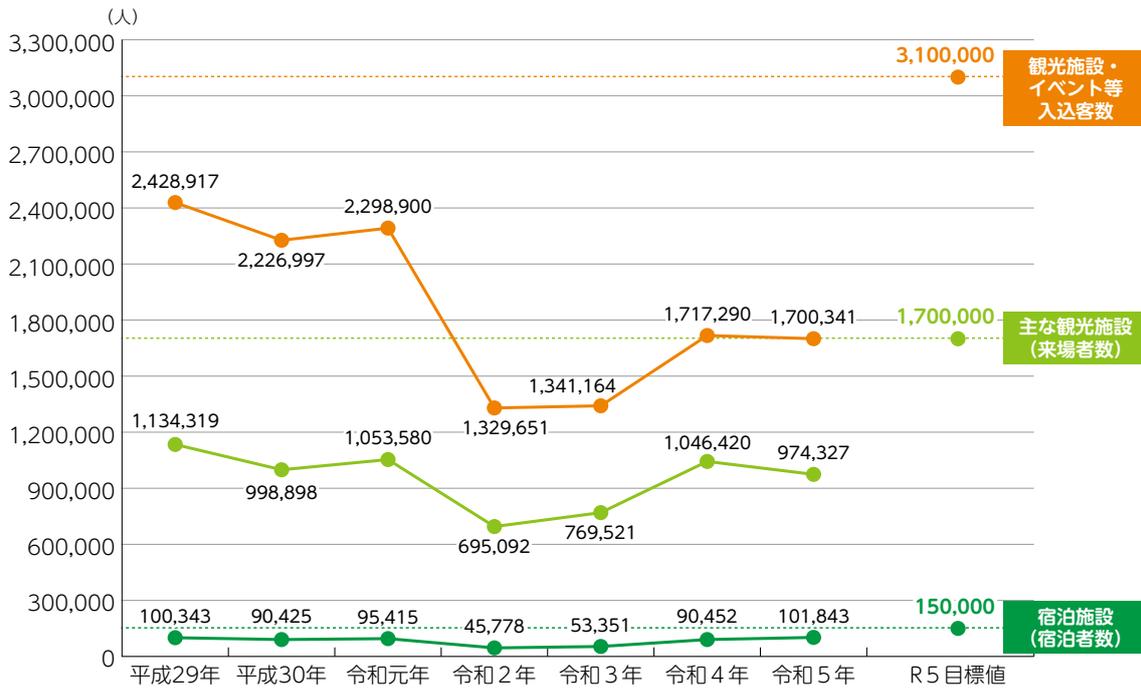
松井秀喜ベースボールミュージアム



いしかわ動物園



辰口丘陵公園



図表7 観光施設・イベント等入込客数

主な観光施設：手取フィッシュランド、いしかわ動物園、辰口丘陵公園、歴史民俗資料館（R2年7月閉館）、能美ふるさとミュージアム（R2年10月開館）、松井秀喜ベースボールミュージアム、五彩館（資料館）、体験館（陶芸館）、浅蔵五十吉記念館（美術館）、アドベンチャーガーデン能美（R4年10月開業）
 宿泊施設：ふるさと交流研修センター（R2より休業、R4年リニューアルオープン）、まつさき、たがわ龍泉閣、旅亭萬葉、B&B NEAGARI、縁が和庵（R2年閉業）、スーパーホテル石川・能美根上スマートインター（R3年開業）、Natural log cottage Hakusan（R5年開業）
 ※宿泊施設は日帰りを含む人数
 出典：能美市観光交流課

②能美市の認知度や魅力度の全国ランキング

株式会社ブランド総合研究所が公表する「地域ブランド調査」の各項目における順位について、平成30（2018）年と令和5（2023）年を比較すると、「居留意欲度」を除き順位は上昇しています。目標値と比較すると、「産品想起率（総合）」が目標順位を達成しています。

区分	平成30(2018)年		令和5(2023)年	令和5(2023)年(目標)	達成状況
魅力度	613位	→	538位	400位	未達成
認知度	712位	→	608位	500位	未達成
情報接触度	763位	→	677位	500位	未達成
観光意欲度	525位	→	502位	400位	未達成
居留意欲度	556位	→	684位	400位	未達成
産品想起率(総合)	693位	→	472位	500位	達成

図表8 能美市の魅力度ランキング

出典：「地域ブランド調査」（ブランド総合研究所）

3. 能美市観光アクションプラン2019の取り組み

I 観光地としての受入環境整備

- ▶ 令和3年に新たな観光パンフレットを作成し、旧パンフレットの年間配付部数の2倍以上となる年間1万冊以上を市内に設置・配布しました。
- ▶ 新型コロナウイルス感染症拡大による主要イベントの中止が多く、行政と民間事業者等と連携した事業展開も減少しました。
- ▶ 能美市公共サイン整備計画に沿った看板の整備や、能美根上スマートインターチェンジそばに市全体の案内看板を整備するなど、観光施設を訪れやすくするための環境整備を行いました。
- ▶ 宿泊施設や民間観光施設等の誘致を行いました。また宿泊施設の利便性向上や観光拠点の整備に向けた支援を行い、滞在型観光客の増加に向けて取り組みました。

【新たに整備された宿泊施設・観光拠点】

- ・スーパーホテル石川・能美根上スマートインター（令和3年2月オープン）
- ・Yahataすしべん能美根上インター店（令和3年4月オープン）
- ・ふるさと交流研修センター（令和4年7月「ウェルネスハウスSARAI」リニューアルオープン）
- ・アドベンチャーガーデン能美（令和4年10月オープン、令和6年3月リニューアルオープン）

- ▶ のみバスの観光ルート設定や能美古墳群散策用のレンタサイクル設置など、二次交通の拡充を進めました。
- ▶ 宿泊施設では、令和6年能登半島地震の避難者を受け入れ、被災者支援と観光振興の共存に取り組みました。
- ▶ 令和6年3月、I Rしかわ鉄道の金沢以西延伸をうけ、能美根上駅において、列車が近づいたときのメロディーとして、能美市出身の加賀大介氏が作詞した全国高等学校野球選手権大会の大会歌「栄冠は君に輝く」が7年ぶりに復活する等、駅周辺の賑わい創出に取り組みました。

【今後の課題】

- ▶ 観光客の滞在時間増加に向けた、テーマ性を重視した周遊ルートの構築や、観光施設の整備、案内看板の整備など滞在しやすい環境づくり
- ▶ 市民、民間事業者等との連携による観光振興推進体制の検討
- ▶ 自動車を持たない人でも市内周遊を楽しめるような、二次交通手段の充実



ウェルネスハウスSARAI「丸谷ステイ」



スーパーホテル石川・能美根上スマートインター

II 着地型観光の確立

体験プログラムの造成

- ▶ 九谷焼を軸とした工房見学・絵付け体験ツアー（KUTANism）を小松市と連携して実施しました。
- ▶ 九谷焼絵付け体験ができるキャラクターは、ウルトラマンシリーズに加え、市公式キャラクターやサンリオキャラクター、星のカービィ等全13種類に増えました。また金沢21世紀美術館にて作家が手掛けた九谷焼のキャラクター作品やランプシェード作品の展示、絵付け体験や九谷陶片アクセサリー体験の実施など、体験プログラムのPRを行いました。
- ▶ 職人工房に3人の九谷焼作家が入居し、作陶活動や雇用創出につながりました。また職人工房の作家が講師となった絵付け体験プログラムを造成・実施し、観光地として選択される可能性を高めました。
- ▶ 産業観光の可能性を検討し、民間企業4社と連携した産業観光プランを造成しました。
- ▶ 能美市の里山の自然や地形を活用した体験プログラムの造成や子育て世帯向けのイベント等を実施しました。
- ▶ 令和2年10月に開館した能美ふるさとミュージアムを中心に、能美市の文化財を活用したイベントを毎年開催し、観光プログラムづくりに向け取り組みました。
- ▶ 団体旅行促進補助金を設置し、修学旅行の誘致を強化した結果、新たに農業体験プログラムがスタートしました。

イベントの開催

- ▶ コロナ禍においてはステイホームで楽しめるイベントを継続的に実施することにより、ポストコロナに即した誘客に向けての魅力発信を図りました。
- ▶ 能美市合併15周年、加賀立国能美誕生1200年、北陸新幹線県内全線開業など千載一遇のチャンスを活かし、いしかわ百万石文化祭との連携によるナイトマルシェやふるさと歴史広場周辺での光の演出を実施したり、北陸新幹線県内全線開業を記念したギネス世界記録への挑戦等、様々な記念事業を実施し、知名度向上を図りました。

【今後の課題】

- ▶ 観光客の滞在時間延長促進に向けた、九谷焼、産業観光、里山、文化財など、能美市の特色を活かした体験プログラムの造成推進
- ▶ イベントを通じた能美市の認知拡大と来訪につなげるスキームの構築
- ▶ 能美市を訪れてほしいターゲットの明確化と、ターゲットの嗜好を分析したうえでの体験プログラムの造成
- ▶ 能美市のお人柄にふれ、能美市ファンを増やし再訪につなげる体験プログラムの造成
- ▶ 体験プログラム継続に向けた体制づくり



農業体験プログラム



ギネス世界記録®に挑戦
(令和6.3.30 ギネス世界記録更新)

Ⅲ 観光まちづくりの推進

観光推進体制の構築と観光ガイドの育成

- ▶ 任意団体であった能美市観光物産協会は、令和2年から一般社団法人となり、観光産業の健全な発展と振興並びに地域物産の販売促進の強化を図りました。
- ▶ 能美市観光アクションプラン2019については、コロナ禍により策定後の進捗管理が難しく、計画を見直すことなく進めました。

市民が能美市の魅力を体験する機会の充実

- ▶ 観光の重要要素である九谷焼を子どもの頃から認識してもらうため、市内の全小中学校において九谷焼体験を実施しました。
- ▶ 市民向けにのみ検定を開催する等、市民のふるさと愛を醸成し、市民の発信力を強化しました。

情報発信の強化

- ▶ テレビCMやシネマ広告、駅構内のデジタルサイネージを活用したPRにより、魅力度・注目度向上を図りました。
- ▶ 能美市公式LINE、Facebook、Instagramなど各種SNSを活用し情報発信を行いました。Instagramではハッシュタグキャンペーンを実施し、ファミリー層を中心とした幅広い層へ情報発信を行いました。
- ▶ 計画期間中、観光大使・特使を新規に18名委嘱し、全45名が各々の活動分野で信頼性の高い魅力発信により、全国・海外からの関心を高めました。
- ▶ 大都市圏での商談会の参加やいしかわ伝統工芸フェアの出展により、観光プロモーションを行いました。
- ▶ 令和5年、サンリオの人気キャラクター「シナモロール」を能美市応援大使に任命し、市公式キャラクターと連携したPRを推進し、認知度向上と市のイメージ定着を図りました。

【今後の課題】

- ▶ (一社)能美市観光物産協会が能美市の観光をけん引する組織となるための機能整理
- ▶ 能美市を訪れてほしいターゲットの明確化と、ターゲットの嗜好を分析したうえでのプロモーション展開



のみ検定の開催



シナモロールと連携した駅内サイネージ
(小松駅新幹線ホーム階段)

Ⅳ 地域資源を活かしたものづくり

- ▶ 九谷焼アクセサリー「Wear KUTANI」や雑貨「with KUTANI」の制作を行っています。
- ▶ 6次産業化商品の開発に向けた支援を行い、農産物の新商品開発につなげ関係産業の活性化を図りました。

【今後の課題】

- ▶ 観光客の消費額拡大に向けた、能美市の特色を活かした継続的に売れる商品の開発に対する積極的な支援



Wear KUTANI



国造ゆずを使ったハンドソープ

V 地域連携による観光事業の拡大

地域連携による観光の推進

- ▶ オール加賀会議において、南加賀6市町連携による着地型観光プランを造成しました。
- ▶ 小松市や加賀市と連携して事業を実施することで、市内外や首都圏でのプロモーションを強化しました。

インバウンド観光の充実

- ▶ 外国人旅行者の視点に寄り添った情報発信を推進するため、英語版ガイドマップを新たに作成し、石川県の玄関口である金沢駅など20箇所以上に設置しました。
- ▶ 外国人旅行者が訪れやすい環境整備として、Wi-Fi環境やキャッシュレス環境の整備、Googleマップの情報整備などを行い、観光地としての利便性を高めました。



オール加賀会議 TOCHI DOCHI
南加賀フェア出展

【今後の課題】

- ▶ 北陸新幹線県内全線開業による加賀エリアへの来訪者増加を見据え、南加賀6市町との継続した連携事業やプロモーションの推進
- ▶ 外国人旅行者に向けた観光情報発信方法の工夫と発信強化
- ▶ 小松空港や北陸新幹線を利活用した外国人旅行者の取り込み



旅行会社向けプロモーション

第3章

能美市観光アクションプラン
2024の方向性

1. 能美市を取り巻く現状の整理

能美市観光戦略会議での議論や能美市の観光に関する環境の変化から、能美市の観光を取り巻く現状を整理し、アクションプラン推進に向けた3つの視点を設定します。

■ 観光戦略会議委員からのご意見

- ▶ 能美市の資源・施設を客観的に再認識・編集し強みを明確化する必要がある
- ▶ 明確な強みに基づいてブランディング・発信すれば効果が出やすい
- ▶ 能美市の特徴を踏まえターゲットを絞るとより戦略的に情報発信できる
- ▶ データの収集・分析が重要である

■ 観光に関する環境の変化

【能美市内部の変化】

- ▶ アドベンチャーガーデン能美、能美ふるさとミュージアム、ふるさと交流センター「ウェルネスハウス SARAI」等の新たな施設・拠点がオープン
- ▶ 九谷焼を用いたアクセサリ作り、アーバンスポーツなど新たなアクティビティの充実

【能美市の外部環境の変化】

- ▶ 体験価値を重視した「コト消費」ニーズの一層の広がり
- ▶ 家族・小グループ旅行の拡大、地元で遊ぶ機会の増加のほか、働き方の多様化に伴う旅行スタイルの変化
- ▶ 北陸新幹線敦賀延伸による首都圏等からの時間距離の短縮、メディア露出増加の期待

アクションプラン推進に向けた3つの視点

【1】能美観光のリブランディング

- ・観光資源・コンテンツを再認識・再編集し、強みを明確化
- ・明確化された強みを踏まえ具体的なターゲットを設定（コロナ後の旅行ニーズ等も考慮）

【2】ターゲットに応じたコンテンツ開発と情報発信

- ・【1】で設定したターゲットを踏まえ、観光コンテンツを開発
- ・ターゲットに能美市の観光情報を届けるための的確な情報発信

【3】観光まちづくりプラットフォームの形成

- ・行政と観光事業者が共に能美の観光について考え行動できる体制を構築
- ・①と②のディレクションを観光まちづくりプラットフォームが担う

2. アクションプラン推進に向けた3つの視点

(1) 能美観光のリブランディング

能美市が観光推進をする上で、まずは**今ある観光資源や観光コンテンツを再認識し、能美市の独自性や強みを明らかに**します。

<基本方針>

- ・能美市に訪れている観光客の傾向（年代、家族構成、来訪目的など）を知り、能美市の観光と相性の良いターゲットを具体的に設定する
- ・今、能美市にはどのような観光資源や観光コンテンツがあるのか、設備内容や情報発信状況を踏まえ整理する
- ・観光客の旅行ニーズを把握し、能美市の強みとなるポイントを探る

(2) ターゲットに応じたコンテンツ開発と情報発信

リブランディングで明確化した強みを踏まえ、**ターゲットを想定した観光コンテンツの開発を推進**します。またターゲットに応じたメディアと連携し、**ターゲットに情報が届くよう的確に情報発信を行い、誘客につな**げます。

<基本方針>

- ・ターゲットを想定して、観光コンテンツの開発や今ある観光コンテンツのブラッシュアップを支援する
- ・ターゲットに情報を届けるために、ターゲットに応じたメディアの招聘や情報発信を行う
- ・広域連携型のコンテンツを開発し発信するなど、近隣市町と連携し効果的に情報を発信する

◆実施イメージ

(1) 能美観光のリブランディング

能美市に来てほしいターゲット（仮説）の設定

能美市を現在訪れている観光客の傾向把握 / 能美市の観光に合うターゲットの仮説を立て設定

観光資源等の整理と強みの明確化

能美市の観光資源・コンテンツを再整理とコロナ後の旅行ニーズ等を把握して強みを明確化

強みを踏まえたターゲットの再確認・見直し

明確化された強み（観光資源やコンテンツ）及び観光トレンドを踏まえ、仮説だったターゲットを具体化

(2) ターゲットに応じたコンテンツ開発と情報発信

コンテンツの開発・ブラッシュアップ

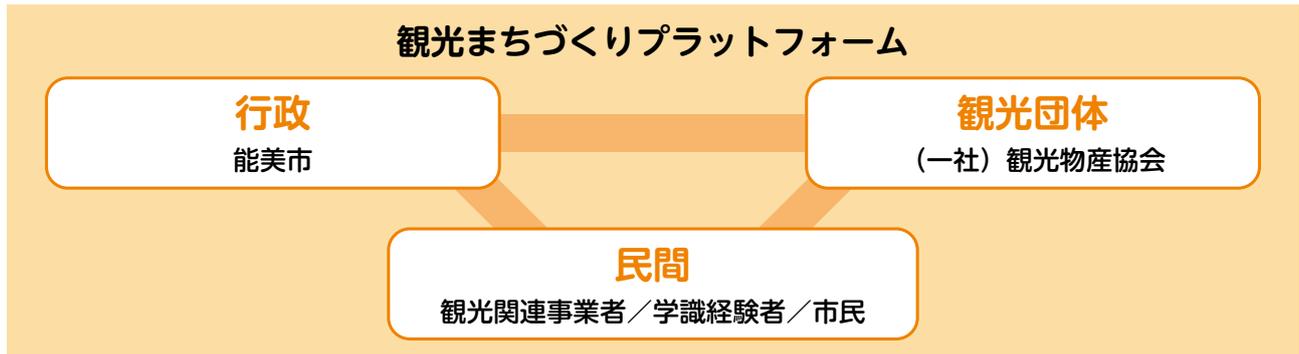
- ・事業者の観光コンテンツ開発・ブラッシュアップを支援（モニターツアーの実施等）
- ・広域連携型観光コンテンツの開発

ターゲットへの情報発信・営業

- ・ターゲットに応じたメディアを招聘し情報発信につなげる（メディアツアー）
- ・観光資源・コンテンツをまとめたPR資料の作成
- ・近隣市町と連携した効率的・効果的な情報発信

(3) 観光まちづくりプラットフォームの形成

能美観光のリブランディング含め、能美市観光アクションプランを効果的に推進するためには、市内の観光事業者との連携が不可欠です。そこで、行政・観光団体・観光関連事業者・学識経験者・市民が共に能美の観光について考え、行動できる体制を確立します。



①観光まちづくりプラットフォームに求められる役割

▶ 能美観光のディレクション

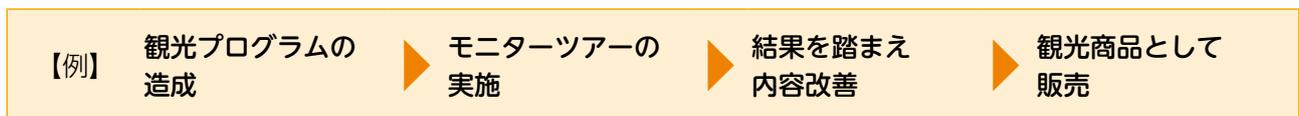
強化ポイント「①能美観光のリブランディング」と「②ターゲットに応じたコンテンツ開発と情報発信」について、ディレクションを行う

▶ 事業者同士のネットワーク構築

勉強会などを開催し、観光事業者同士のネットワークを構築することで、事業者同士の連携による新たな観光プログラム造成を促す

▶ トライアル事業の実施

観光事業者と連携して、観光プログラムの商品開発から情報発信まで一貫して実施する



②施策推進の考え方

事業を実際に推進しながら、能美観光のリブランディングの方向性やターゲットについて検討し、事業に反映させて検証を重ね、能美観光の方向性を固めます。



3. 施策の体系

能美市観光アクションプランを推進するために5つの施策の柱を設定します。また、施策を実行しながら、観光まちづくりプラットフォームが「能美観光のリブランディング」と「ターゲットに応じたコンテンツ開発と情報発信」を検討し、具体的確な施策の実行に努めます。

施策の5つの柱

I 観光地としての受入環境整備

- 1 観光資源の連携と開発による観光の拡充
- 2 宿泊施設の利便性向上
- 3 観光拠点の整備
- 4 二次交通の充実

II 着地型観光の確立

- 5 観光商品の磨き上げ
- 6 ちょい住み体験の受入体制の推進
- 7 イベントの充実

III 観光まちづくりの推進

- 8 観光の推進体制の構築
- 9 観光を担う人材の育成
- 10 ターゲットに応じた情報発信・プロモーション

IV 地域資源を活かしたものづくり

- 11 観光新商品の開発

V 地域連携による観光事業の拡大

- 12 広域による観光パッケージの拡大
- 13 インバウンド観光の充実

取り組み推進のための3つの視点

①能美観光の
リブランディング

②ターゲットに応じた
コンテンツ開発と
情報発信

ディレクション

③観光まちづくり
プラットフォームの
形成

反映

検討



第4章

能美市観光アクションプラン 2024の目標と事業計画

1. 能美市観光アクションプラン2024の目標値

能美市観光アクションプラン2024では4つの指標をもとに数値目標を設定し、目標達成に向けて各種施策を推進します。

(1) 観光施設・イベント等入込客数

- ▶ 周遊しやすい環境や能美市らしい観光コンテンツの整備を推進し、来訪者数の増加を目指します。
- ▶ 国の観光立国推進基本計画（令和5年3月31日閣議決定）を参考に、令和元年から5%増加を目指します。令和5年を基準とすると、観光施設・イベント等入込客数は約40%増加を目指します。

区 分	令和元(2019)年 実績値	令和8(2026)年 目標値
観光施設・イベント等入り込み客数	2,298,900人	240万人
うち主な観光施設	1,053,580人	110万人
うち宿泊施設利用者数	95,415人	10万人

主な観光施設：手取フィッシュランド、いしかわ動物園、辰口丘陵公園、歴史民俗資料館（R2年7月閉館）、能美ふるさとミュージアム（R2年10月開館）、松井秀喜ベースボールミュージアム、五彩館（資料館）、体験館（陶芸館）、浅蔵五十吉記念館（美術館）、アドベンチャーガーデン能美（R4年10月開業）

宿泊施設：ふるさと交流研修センター（R2年より休業、R4年リニューアルオープン）、まつさき、たがわ龍泉閣、旅亭萬葉、B&B NEAGARI、縁が和庵（R2年閉業）、スーパーホテル石川・能美根上スマートインター（R3年開業）、Natural log cottage Hakusan（R5年開業）

※宿泊施設は日帰りを含む人数



九谷茶碗まつり



根上り七夕まつり



辰口まつり

(2) 能美市の認知度や魅力度の全国ランキング

- ▶ ターゲットに応じた積極的なプロモーションを推進し、認知度向上・魅力度向上を目指します。
- ▶ 株式会社ブランド総合研究所が公表する「地域ブランド調査」の各項目の順位を、石川県内自治体で5位以上を目指します。

区 分	令和5(2023)年 実績値	令和8(2026)年 目標値
魅力度	538位(6位)	350位
認知度	608位(6位)	500位
情報接触度	677位(7位)	350位
観光意欲度	502位(7位)	300位
居留意欲度	684位(7位)	500位
産品想起率(総合)	472位(6位)	350位

※ () 内順位は石川県内自治体(市)における順位

(3) 来訪者の満足度【新規】

滞在しやすい環境づくりや能美市らしい観光コンテンツの提供を通して、能美市への来訪者(観光客・ビジネス客)の満足度向上を目指します。

(4) 市民の満足度【新規】

能美市の観光施設の利用状況や満足度、来訪者の歓迎意向など、観光まちづくり推進に関する能美市民の肯定的な意見の割合増加を目指します。

<新規指標について>

(3) 来訪者の満足度および (4) 市民の満足度は本アクションプランから新たに追加する指標です。データの収集方法やアンケート内容等の検討を行った上で、本アクションプランが始まる令和6年度より調査を進めます。

2. 能美市観光アクションプラン2024の事業計画

目標の実現に向けて、施策の5つの柱ごとに次の取り組みを進めます。

I 観光地としての受入環境整備

観光客が快適に楽しめるよう、観光地としての基盤づくりを行います。情報収集、移動、食事、宿泊、商品購入といった、旅行者が能美市を満喫するための環境を整備し、能美市内での滞在時間増加を促します。

1 観光資源の連携と開発による観光の拡充

1-1 快適に滞在できる環境の整備

- ▶ ストレスなく目的地に到着できる環境は、観光客の満足度向上につながります。施設への案内看板の整備、Wi-Fi環境の整備、多言語での受入環境の整備、キャッシュレス環境の整備など、多様な人が快適に滞在できる環境づくりを行います。

1-2 能美市の魅力的なコンテンツを活かした観光の提案

- ▶ 能美市は九谷焼、産業、スポーツ、里山、文化財、温泉など多様なコンテンツを有しています。これらの観光資源をキーワードに沿って整理しテーマ性をもたせることで、観光客の満足度の高い観光を提案します。

2 宿泊施設の利便性向上

2-1 辰口温泉・市内宿泊施設の魅力アップ

- ▶ 旅行者の誘致や旅行者のニーズを踏まえた宿泊施設の整備に対する支援を行い、能美市での宿泊者増加や長期滞在を促します。



長期滞在の促進

3 観光拠点の整備

3-1 観光拠点の整備

- ▶ 市内の各種観光施設の設備改修を推進します。また、観光拠点の分散化により利便性や魅力の向上を図ります。



能美シーサイドプレイパーク



KAM能美市九谷焼美術館 | 体験館 | リニューアルオープン予定 (令和6年秋)
シナモロール絵付け体験スタート予定

4 二次交通の充実

4-1 能美市に訪訪するための移動手段の充実

- ▶ 公共交通機関の利便性向上や、レンタカー利用者への支援策などを行い、来訪しやすい環境を整備します。

4-2 能美市内を周遊するための公共交通の整備

- ▶ 能美市内を周遊しやすくするため、のみバスの観光ルートの実行など二次交通の充実化を図ります。

4-3 新たな移動手段の検討

- ▶ 主な宿泊施設、鉄道駅、観光拠点等をネットワークとする乗り捨て可能なレンタサイクル等を導入し、市内周遊の交通手段の検討により利便性の向上を図ります。



のみバス



能美根上駅



能美根上スマートインターチェンジ



レンタサイクル「のみふる号」



II 着地型観光の確立

九谷焼をはじめとするものづくり、歴史、里山の自然、伝統文化、スポーツなど、多種多様な資源を活かした体験型観光プログラムを確立します。また、ターゲットのニーズや嗜好を意識し、能美市の多彩な観光資源を磨き上げ、質の高い観光商品を造成し、旅行者の満足度向上を目指します。

5 観光商品の磨き上げ

5-1 能美市の独自性を活かした観光コンテンツの造成

▶ 九谷焼、産業観光、スポーツ、里山、文化財の5つのテーマから能美市の強みを最大限に活かした観光コンテンツを造成し展開します。

●九谷焼

九谷焼作家との交流機会の創出や他分野とのコラボレーションにより、新たな魅力や相乗効果を生み出すプログラムを開発します。

●産業観光

九谷焼産業、ものづくり企業等を活用し修学旅行を誘致します。

●スポーツ

根上パークゴルフ場を活用し、県内外から利用者を誘致します。マウンテンバイク、トレイルランなどの里山を活かしたスポーツを推進します。

●里山

里山生活体験の家や体験農園の整備、イベントの実施など、グリーン・アグリ・スローの各ツーリズムの充実化を図ります。

●文化財

文化財指定の有無に関わらず市内の文化財を活用して一貫したテーマ・ストーリーを作り、市内周遊を推進します。



九谷焼ビッグモニュメント



九谷焼ビッグモニュメント内部



九谷焼絵付け体験



アドベンチャーガーデン能美

6 ちょい住み体験の受入体制の推進

6-1 長期滞在を楽しめる環境とコンテンツの整備

- ▶ 能美市内に一定期間滞在できる施設を開設し、農泊など能美市での暮らしを体感する機会を創出します。

7 イベントの充実

7-1 市内の各種イベントの充実

- ▶ 現在開催しているイベントを広く市内外から集客できるよう充実させるとともに、民間事業者等と連携してイベントを企画・実施し、市内への入込客数の増加を目指します。



ふるさと歴史の広場 光の演出



金沢21世紀美術館 九谷焼キャラクターコレクション展



里山散策



のみふる古墳まつり



能美市防災フェスタ



加賀立国能美誕生1200年 ナイトマルシェ 古墳de夜市

Ⅲ 観光まちづくりの推進

能美市の観光まちづくり推進に向けて、(一社)能美市観光物産協会の体制強化と、観光事業者や観光ガイドなど能美市の観光を担う人材の育成を推進します。

またターゲットに向けた戦略的なプロモーションを展開し、観光地としてのブランド化を図ります。

8 観光の推進体制の構築

8-1 (一社)能美市観光物産協会の役割検討と体制強化

- ▶ 観光まちづくりプラットフォーム形成に向け、(一社)能美市観光物産協会の役割を明確にします。また協会員をはじめとする市内事業者と連携し、観光事業を推進します。

8-2 観光動態データの収集・分析

- ▶ 能美市を訪れている観光客の傾向(年代、家族構成、来訪目的など)を把握するための動態データを収集し、マーケティングやターゲティングに活用します。

9 観光を担う人材の育成

9-1 質の高い観光ガイドの育成

- ▶ 観光客に能美市の魅力を知っていただくためには、地域の特徴や文化について深く知識を有し、正しく詳細に答えられるガイドの存在が重要になります。地域の魅力を伝えられるガイドの育成を推進します。



観光ガイドの育成

9-2 観光推進プロデュース人材の確保

- ▶ 既存組織、事業者、行政などと協力・調整しながら、情報発信・プロモーション、商品づくり、人材育成を中心とした能美市の観光事業を全体的に把握し、推進する人材を確保します。



講習会開催

9-3 観光事業者のスキルアップと連携強化

- ▶ もてなし力を強化するための講習会や観光商品の造成に関する勉強会の開催により、観光施設関係者や観光事業者のスキルアップを推進し、観光商品の質の向上や観光客の満足度の向上につなげます。また勉強会を通じて、観光事業者間のネットワークの構築を促し、連携強化を図ります。

10 ターゲットに応じた情報発信・プロモーション

10-1 観光大使・特使のご縁を活用した情報発信

- ▶ 観光大使・特使は多くの方に能美市の魅力を伝えられる力を持っていることから、任命者を増やしたり、能美市の旬の情報を提供して魅力を積極的に発信いただくなど、観光大使・特使の宣伝力の強化を行います。



能美市ゆかりのミュージシャンによるコンサート

10-2 観光プロモーションの推進

- ▶ 能美市の観光素材や観光プログラムをまとめた広報・PR資料を作成し、県等が実施している出向宣伝や旅行商談会、首都圏でのイベントで活用します。また、観光事業者や市内企業と連携した宣伝活動、ファムトリップの実施など、マーケティング調査を踏まえた上でターゲットに向けた戦略的なプロモーションを展開し、観光地としてのブランド化を図ります。



連携した宣伝活動

10-3 シティプロモーションの推進

- ▶ 多くの観光客に来訪してもらうためには、まず能美市を知ってもらうことが重要です。公式キャラクター「ひぼ能ん」「ゆず美ん」「ぼぼ能ん」の活用や有名コンテンツとのコラボレーションにより、能美市の認知度向上やイメージの定着につなげます。



公式キャラクターの活用



Ⅳ 地域資源を活かしたものづくり

観光事業者が能美市の地域資源を活かした観光プログラムや特産品を開発できる仕組みを整備し、観光消費額の拡大を目指します。

11 観光新商品の開発

11-1 買いたくなる能美の商品づくりの推進

- ▶ 能美市産農作物の6次産業化推進や九谷焼を活用した能美市らしさを感じられる商品開発を支援することで、市内事業者の能美市らしさの詰まった商品展開を推進し、観光消費額の拡大につなげます。



加賀丸いも



本格加賀丸いも焼酎のみよし



国造ゆず



国造ゆずぷりん



九谷陶片ハッピーズ アクセサリー

V 地域連携による観光事業の拡大

近隣自治体との連携を強化し、効果的な情報発信やプロモーション展開を行います。また、インバウンド誘客促進に向けた情報発信を強化します。

12 広域による観光パッケージの拡大

12-1 広域連携による情報発信とプロモーションの推進

▶ 北陸新幹線敦賀延伸により、首都圏方面からの加賀エリアへのアクセスが容易になり、ますますの観光客の増加が期待できます。

オール加賀会議やトレインパーク白山の活用等、近隣市町との連携により効果的な情報発信やプロモーションを展開したり、広域連携型の観光プログラムを企画・造成することで、地域一体となって誘客を推進します。

13 インバウンド観光の充実

13-1 インバウンド誘客に向けた情報発信

▶ 世界中に能美市の魅力を発信するため、各種ウェブサイトの外国語表記の充実やSNSによる情報発信を行い、能美市への来訪意欲を高めます。



英語版ガイドマップ



インバウンド誘客

3. 能美市観光アクションプラン2024の進め方

能美観光アクションプラン2024を推進するにあたり、アクションプラン推進に向けた3つの視点を、**地域**に関わる多様な主体でしっかり共有し、**みんなで、磨き上げます。**

年度	何をするのか	
2024年度 (令和6年度) 1年目	▶ アクションのトライ&エラー	とにかく、 みんなで 、 何でもできることをやってみる
2025年度 (令和7年度) 2年目	▶ アクションのトライ&エラー継続 ▶ 1年目の検証 ▶ 検証をもとにした事業のウエイト設定	1年目に取り組んだ事業を検証し、 「能美観光」*の方向性を見極める
2026年度 (令和8年度) 3年目	▶ アクションのトライ&エラー継続 ▶ 2年間の検証 ▶ 「能美観光」の推進体制づくり	2年間の検証を踏まえ、能美らしい 観光スタイルを構築 「能美観光」を推進する体制を整える

* 「能美観光」とは、能美市らしい、能美市ならではの観光スタイルのこと



能美市観光アクションプラン2024

令和6年3月 発行

発行：能美市産業交流部観光交流課

〒923-1198 石川県能美市寺井町た35番地

TEL：0761-58-2211 FAX：0761-58-2297

Mail：kankou@city.nomi.lg.jp

